

東京都緩和医療研究会の設立について

日本緩和医療学会が設立されてから 18 年が経過しました。本学会は、多職種が集まる学会として一定の成果をあげてきていますが、学会が大規模化するとともに、いくつか考えていくべき問題に直面しています。具体的には、日本緩和医療学会の全国規模の学術集会では、発表内容は「全国的に共有すべき内容」という視点が重視され、地域の実践に即した発表や症例報告の発表の機会がないということ。また、緩和医療は地域連携が重要であり、地域ごとの分析や検討の場が必要であるが、地域特有の問題について共有できる場がないことなどがあげられます。

これらの問題点を解決し、東京都内の緩和医療の関係者が顔を合わせ、緩和医療のあり方について学術的に意見交換し、地域の連携について話し合う機会を作っていくことを目的として、今般、「東京都緩和医療研究会」を設立することといたしました。

本研究会は、営利団体などからの資金提供に依存しない自立した公的な会として活動していくことを目指しており、行政機関や職能団体との連携を図り、東京都内の緩和医療の発展に大いに貢献するとともに、将来的には日本緩和医療学会の正式な下部組織に位置付けられることを目指しております。

平成 25 年 6 月 20 日、第 18 回日本緩和医療学会学術集会時に、初めて地区ごとの代議員会が開かれ、その中で、東京都では症例の学際的検討や地域の情報交換を行う場がないという意見がございました。この地区代議員会での意見を踏まえ、東京都で研究会を設立し学術集会を実施すべく、東京都在職の理事と地区委員が発起人として準備を進めてまいりました。

平成 25 年 8 月 11 日、東京都在職の代議員の方々にお声かけし、研究会設立に向けた意見交換会を開催いたしました。そこで、研究会のあり方や学術集会の内容について話し合い、平成 26 年 1 月 12 日に、研究会を立ち上げ、学術集会を開催していくための準備を進めていくこととなりました。

東京都在職の緩和医療に関係する方々に、本研究会の設立について知っていただくとともに、ぜひ今後の活動についてご協力を賜りたく存じ上げます。ぜひとも、本研究会の設立の趣旨についてご理解をいただき、世話人になることを含めて、運営にご協力いただきたくお願い申し上げます。

平成 25 年 9 月 17 日

【発起人】

有賀悦子、加賀谷 肇、加藤雅志、下山直人、
高宮有介、橋口さおり、吉澤明孝